

記入日 2021 年 11 月 12 日

## 一般社団法人日本薬学生連盟 2022 年度本部立候補申請書

立候補者氏名	右田咲良
立候補する役職	地域連携委員長
大学/学部/学科	崇城大学/薬学科/薬学部
学年	2 年
所属	九州支部、国際渉外部
日本薬学生連盟での活動経歴	記入例) 2020 年 入会 薬学生フェスティバル 2020@西日本スタッフ 2021 年 日本薬学生ジャンボリースタッフ
立候補動機	日本全国の薬学生を繋げる地域連携委員会をより活性化させたいと考え立候補しました。また、来年度から支部本部制度が廃止されることにより全国規模の繋がりがより一層強くなる一方、地域ごとの繋がりが薄くなるのが危惧されます。ここにアプローチするのが地域連携委員会の役割です。九州支部本部として活動した経験から、全国規模での委員会となっても、地域内での連携は保ちたいという思いを実現させたく、立候補しました。
問題点と改善案	前年度に引き続き、オンライン開催が続く現在も新規のスタッフ会員登録者、イベントの参加者が非常に少ないと感じています。 特に今年度の秋新歓、日本薬学生ジャンボリーは全国の薬学生が集まるイベント開催でしたが、新規の参加者が少なく、普段から日本薬学生連盟のスタッフとして活動している人が参加者の大多数を占めており、全国開催にした意義を私自身あまり感じ取れませんでした。オンライン開催の強みは、オフライン開催と比較して簡単に全国に知り合いができることだと思います。この利点を生かして、よりスタッフ同士の繋がりが深められ、多くの方に参加してもらえる企画内容に改善したいです。 また、立候補動機で述べたように、来年度からは地域ごとの支部本部制度が廃止され、1つの地域連携委員会としての活動になることで、全国規模で繋がれるイベントの開催が増える一方、地域内の繋がりが希薄になる懸念があります。私は、全国の繋がりと同様に自分の住んでいる地域での繋がりがあっても非常に重要であると考えています。地域連携委員会として全国規模でのイベントを中心に開催しながら、地域ごとのイベントの開催を企画したいと思います。 来年度もオンライン開催でのイベントが中心になることが予想されますが、オフラインでの活動が可能になった際には、地域ごとのイベント、さらには全国から薬学生が集まるイベントを企画し、全国の薬学生を繋ぐ役割を果たしたいです。
活動計画	4-5 月 新歓 10 月 日本薬学生ジャンボリー 3 月 年会 通年で、定期的に地域限定イベントを開催したいです。
所信	私は、1年生のときに日本薬学生連盟に加入し、その時からスタッフ会員として活動してきました。加入してすぐにスタッフとして活動し始めたのは、参加したイベントでスタッフの皆さんの姿に圧倒され、強く憧れを抱いたからです。自分の住んでいる地域の方々との繋がりをもちたいと思い、九州支部本部に所属しました。活動をしていく中で、全国各地に知り合いが増えていき、活動がますます楽しくなっていました。感染症拡大の状況から、大学に入学しても学校に通えず、友達も思うように作れない状況の中、全国に知り合いがいる、話せる人がいるということがとても心強かったです。 また、九州支部本部は少し大げさかもしれませんが、私にとって全国で活動してもここに帰ってこられるという安心感を与えてくれる場所でした。九州支部本部として自分の住む地域の先輩方と話したり、活動したりすることは全国の薬学生と繋がりを話すこととはまた別の楽しさがありました。 しかし、来年度からは支部本部制度が廃止されます。支部が統一され全国での活動の幅が広がる一方で、やはり地域ごとの繋がりは薄くなります。その中でも全国との繋がりの地域内での繋がりの保ち、私を感じたようにスタッフもその繋がりが大切だと思える委員会にしたい、と思い今回立候補しました。 そして私自身のこととして、委員長になることで受け身の自分を変えたい、という思いもあります。イベントに参加すればするほど、この団体で活動したいという思いが強くなるものの、積極的に活動できていない自分もいました。いつも自分を成長させてくれる日本薬



## 一般社団法人日本薬学生連盟(APS-Japan)

〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷 3 丁目 39-12 ウェストビル 1 階

Email: [apsjapan@apsjapan.org](mailto:apsjapan@apsjapan.org) HP: <https://apsjapan.org>

学生連盟の委員長の 1 人として活動し、より多くの人と関わることで、様々な刺激を受けさらに自分を成長させるきっかけにしたいです。  
私には地域連携委員会として活動した経歴はありません。しかし自分の住む地域での薬学生同士での繋がり、全国の薬学生と繋がることの意義を誰よりも感じています。地域連携委員長として、日本薬学生連盟の薬学生同士の懸け橋をしたい、これを達成することが私の目標です。